

クレートトレーニング

クレートトレーニングとは、犬の祖先であるオオカミが洞穴に住む習性を利用したもので、クレート（ペットケージなど）を洞穴にみたてて、そこで犬が安心して休める場所として慣らしておくことです。

このトレーニングはトイレのしつけに効果的だけでなく、室内での破壊行動の防止やペットをつれての旅行などにも大変役立ちます。

クレートトレーニングの方法

適切なクレートを用意するまず犬がリラックスして眠れる広さのクレートを用意します。クレートはなるべくあなたや他の家族がいる部屋（昼間はキッチンや居間、夜はベッドルームなど）に置きます。ケージの中には犬の好む敷物を敷き、寝心地よくしておきます。

クレートに良いイメージを持たせる次に大好きなおもちゃや食べ物をクレートに入れておき、犬を呼び寄せてクレートの中でそれらを与えるようにします。最初はドアは開けたままにしておきます。

クレートに慣らす

犬がクレートに良いイメージを持つようになったら、少しずつクレートにいる時間を延ばしていきます。嘔むおもちゃなどを入れて夢中で遊んでいる間に少しの間ドアを閉めてみましょう。ただしこの間あなたは必ずそばにいて犬に隔離されているという印象を持たせないようにしてください。

犬を少しずつクレートに慣らし、夜はこの中で休ませましょう。ただしこの際も、犬が隔離されていると感じないようにあなたのベッドのそばにクレートを置きます。

クレートに慣れたら

犬がクレートに慣れたら、短い時間クレートの中で我慢させることを教えるだけでも良いでしょう。この段階では犬が外に出たがっても無視します。鳴く度にかまっていると吠えて物を要求する事を覚えてしまい、無駄吠えの問題行動を起こしやすくなるからです。犬が鳴きやむのを待ってタイミング良く外にだしてあげま

しょう。

このようにして犬にクレートを安息の場所として慣らすことができれば、トイレのしつけやお留守番、旅行などさまざまな場面でこれを応用することができます。

クレートを使ったトイレのしつけ

クレートトレーニングが成功するとトイレのしつけにもこれを応用できます。犬は本能的に自分が眠る場所で排泄する事を嫌いますから、普通はクレートの中で排泄しません。犬がクレートの中で眠って起きたら、クレートから出してトイレに連れて行き、排泄を促します。正しい場所で排泄できたらおもいきりほめて褒美をあげましょう。また排泄訓練の最中にどうしても犬を見てられない時間帯はクレートに入れておく事で失敗を防げます。

クレートでお留守番

やんちゃ盛りの仔犬では独りでお留守番させると何をしでかすかわからないですね。あなたのためにも仔犬の安全のためにも、長時間仔犬を独りでお留守番させることはお勧めできません。短時間のお出かけなら、クレートの中でお留守番させることができます。この際、仔犬が閉じこめられたと感じてクレートにマイナスのイメージを持たないように嘔むおもちゃや好物をクレートに入れておいたり、クレートの中で退屈してイライラしないように、お出かけの前に十分遊んであげてエネルギーを発散させておくなどの工夫してみてください。

犬と一緒に旅行に出かける

クレートトレーニングができれば犬と一緒に旅行も安心して出かけることができます。クレートの中は犬にとって安心して休める場所ですから移動の際や旅行先で寝るときなどにはクレートに入れておきます。（自動車の中はもちろん飛行機にもクレートに入れて乗せることができます）これで移動中や旅行先の部屋で排泄の失敗を避けることができ、乗り物や部屋を汚す心配もありません。犬自身も知らない場所でも慣れたクレートの中であれば落ち着いていることができるのです。

クレートトレーニングの失敗

-犬がクレートに入りたがらない、クレートに入れるとすぐに鳴き出してしまふ-

最初にお話ししたようにクレートトレーニングは犬がまわりを囲まれた巣のような場所を自分の安息の場とする習性を利用したものです。従ってこの巣の代用となるクレートが犬にとって不自由だったり、我慢できない物であってははいけません。クレートに入ることやイヤがったり、クレートに入れたとたんクンクン鳴いてドアを前足でかきはじめるようならクレートをイヤな物と結びつけているのです。犬がクレートをイヤがる原因を考えてみましょう。犬をケージに閉じこめてほったらかしにしていますか？ クレートに慣れるまでは決してあせらずまず犬にクレートは楽しい場所、安心して眠れる場所であることを教えてあげてください。

-クレートの中で排泄してしまふ-

犬は自分の眠る場所で排泄する事を本能的に嫌いますから普通クレートの中では排泄はしないものです。クレートの中で排泄してしまふ犬はペットショップなどで長期間ケージ飼いになっていたためにケージの中で排泄する習慣がついてしまっている場合があります。またクレートが広すぎるとその中で眠る場所と排泄する場所を区別してしまふ場合があります。このような場合はクレートを狭くしてみましょう。小さなクレートがなかったら今のクレートの中にしきりや物を置いて狭くしてしまってもよいのです。

但し、いつもはきちんとしたところでトイレができるのに膀胱炎などの病気で粗相をしてしまふこともありますので、あまりに続くようであれば獣医師の診察が必要なこともあります。

クレートの間違った使い方

犬がいたずらをするからとクレートに入れっぱなしの方がいます。これは外でくさりに繋ぎっぱなしの犬と同様、おすすめできません。犬がクレートに慣れたあとでも寝るとき以外にクレートに入れるのはどうしても見ていられない短い時間帯だけにしましょう。人

間にとっては安心でも、単調なクレートの中で毎日長時間過ごすことは犬の心身の発達のためには不適当だからです。犬も子供と同様に豊かな環境の中でこそいろいろなことを学び成長していくのです。

犬も家族同様に一緒に暮らすのなら時間がかかって家の中で安心して過ごせるようにしつけをしてあげべきではないでしょうか。

去年の秋にはテリーライアン先生の犬のキャンプに参加するために愛犬と栃木まで飛行機で出かけました。キャンプではひとつの部屋に5人の人間と6頭の犬が約1週間同居しましたが、みんなクレートトレーニングができていたため何の問題もなく過ごすことができました。

最近ではペット同伴可能な宿泊施設も増えてきました。この傾向がこれからも広まっていくかは飼い主である私たちのモラルにかかっています。しつけは犬と楽しむためにもぜひ必要なのです。



このペーパーは株ペット・ペット社が提供する
PET LOVERS' FORUM (<http://www.pet-vet.or.jp>)で、
もみの木動物病院 村田香織先生が提供されたものを一部改編して作成しております。

イラスト著作：くぼじょうこ

このペーパーは下記当院のインターネットホームページで24時間無料で取り出せます。また、ホームページには他にも様々な情報が掲載してありますので、ぜひご覧ください。



Copyright (C) 2001 Tatsuya Fukuyama DVM, AFP IKI ISLAND VETERINARY CLINIC.
Tel 0920-47-6767 Fax 0920-47-0350 e-mail: foffice@bronze.ocn.ne.jp
<http://www.ikikoku.com/pet.html>